



■みわ・とよあき 東北大経卒。1988年大和証券入社。89年ユニデン入社。香港部門の取締役などを経て94年退社。95年にU.S. エデュケーション・ネットワーク(現アビタス)を設立し現職。東京都出身。

トップは語る

——国際会計基準（IFRS）の重要度が増している
「これまでは各国がそれぞれの会計基準でやってきたが、企業活動がグローバル化する中で、会計基準を統一する動きが高まっている。早ければ、日本では2015年から全上場企業にIFRSが適用になる可能性があり、専門知識を持つ人材の需要は急速に高まっている」

——同様の理由で、米国公認会計士（USCPA）の需要も高まっている

「会計基準が統一に向かう中で、公認会計士資格では各国の資格間で国際競争が始まると思う。USCPAは今夏から日本と中東諸国でも受験可能になり、世界のスタンダードになろうとしている。日本企業でも、国内の消費が伸び悩む中で国際展開を図る企業が増えており、これを背景にUSCPA有資格者のニーズが高まっている」

——アビタスはUSCPAなど国際資格の取得を支援するスクールを運営しており、中国に上海校を開設した
「上海だけでなく、北京、深圳、インドでもオープンしていきたいと考えている。中国、インドは米国の大学に最も多くの留学生を送っている国だ。それだけ米国の教育のニーズがあるということで、当社もこの市場を狙って展開していく。5年後には海外売上比率を半分まで持っていくことを目標にしている」

——米国弁護士のコースも設置した

「会計の世界と同様に、国際的なM&A（企業の合併・買収）が増え、渉外業務が増える中で米国の法律に精通した人材が求められている。米国に行かずとも、すべてオンラインでロースクールの授業を受講でき、米国弁護士の受験資格を得られるプログラムを作った。仕事を辞めずに勉強できるため、今後、企業の法務部の方などに広がっていくと思う」
（松田麻希）